

励まし合い運動の前進を

三池主婦会が第30回の定期総会開く

八月二十八日午前九時三十分から労働金庫大牟田支店二階ホールで、三池主婦会第三十回定期総会が開かれ、島会長のおいさつ、経過報告のあと一九八三年度の運動方針と予算を決定、新役員を選出し、力を出し合い、励まし合い、主婦会運動を前進させることを誓い合いました。

総会では、炭協協会の歌を全員で合唱したあと、議長団に中原さん久保田さんを選び、島会長が結成三十周年を振り返って「この三十年の主婦会の運動の中で、ともにたたかう仲間を得たことが最大の喜びでした。……ますます重大な情勢の中で、平和と暮らし、子供たちの未来のために婦人のたてかたが重要だ」とあいさつしました。

大会スローガン

- 一、公共料金や諸物価値上げに反対し、社会保障制度の拡充をたたかひとりましよう。
- 一、民主教育を守り、君が代の国歌化、教科書かきかえ問題に反対しましよう。
- 一、生命を守るCO遺族のたたかひを強化し、裁判闘争を勝利させましよう。
- 一、真の石炭政策を樹立させ、炭鉱労働者と家族の生活を安定させましよう。
- 一、毎月一回は必ず家族会議 班会議を開き話し合いを深めましよう。
- 一、すべての三池労働者、家族と連帯を深め、統一活動を進めましよう。
- 一、憲法改悪、徴兵制度復活、少年法、刑法や優生保護法の改悪に反対しましよう。
- 一、労働者の福祉向上をめざす労資、労使協、労働金庫をみんなで育てましよう。
- 一、平和と民主主義を守るため、予想される総選挙勝利にむけて組織の総力を結集しましよう。

退任役員

島 藤子 (会長)
齊 藤子 (組織部長)
東 敬子 (会計)
塚 本 栄子 (会計監査)
合 瀬 幸江 ()

新役員

会長 平川 弘子 (新)
事務局長 藤田 美代子 ()
会計 片山 聡子 ()
組織部長 中原 千春 ()
会計監査 田島 節子 ()
浦川 ト子 ()

運動方針の骨子

- ①生活を守るたたかひ、②命と健康を守るたたかひ、③統一活動、④子供を守る運動、⑤組織を強める活動、⑥働く婦人としての運動、⑦平和を守る運動、⑧行事(敬老会、その他)など。

お茶の効用

十四分会(三川) 田上 勇

お茶は古くから愛飲されていま、茶は湯きをつくるお茶だけでなく、原産地はインド地方で、日本には中国から移り、今では日本人には欠かせぬ飲み物となつています。

しかし、お茶の効用となるとあまり知られておらず、今年のように暑い日が続くころやジュースなどにとりかかっています。そこで、お茶について一考し、その効用について見直しましよう。

お茶は植物の中でも、①ビタミンCが多く含まれ、②体の疲労回復によく、③頭痛の時や、④二日酔いの回復、⑤口中のネバネバをすっきりさせ、⑥頭の働きをよくする。⑦お茶に含まれているタンニンは利尿作用があり、⑧血中の老廃物を排出させます。⑨お茶は、いまま曜病院で療養中です。療養生活の中で、皆さんの肥後狂句を作っておられましたので、その中から任意で抜き出して紹介します。

病床吟

楽しみは 三度のめしと 検温だけ
あーきつあー もちつとめしは
飯やちよと おまけは点滴 しほうだい
採血ん時や もういっぱいの めし頂戴
点滴完 針のいたさも きゃあなれた
静脈から 今日一本 のませらす
とつてもにやー 今日の蓄尿 二千五百
なに食うたろー 今日の尿糖 上つとる
いやらさ 看護婦さんの
待ったった うつくしか手で にぎらるる
待ったったー 検査結果の よか知らせ
十円で 妻に知らせる よか結果
安静と 言ったっちゃー 街まつりげな
ベッドまで まつりばやしに 聞こえ来る

ニュースの目

「水道水 CNP汚染」の見出しをつけた、九月七日付『毎日新聞』を見て、がく然とした。

CNPというのは、商品名MOという水田除草剤である。

その水田除草剤を、なぜ大量に使用するようになったのか。それは、田植えというのが昔のような手植えと違って、根付けの浅い機械植えになってから、稲株の微弱さを雑草から保護するために大量に散布されるようになったといわれる。つまり農業だけでは食っていけないような農業政策から生

農薬汚染

「社水」は安全か

十六分会(三川) 武松 輝男

衛生研究所の山岸先生が発表されたことは、いまだに許されないうた。水田に散られた農薬II除草剤が、上水道に含まれると、市水のように清里の井戸水を混ぜ合わせよう、要求しようではないか。



時じくの雨

十二分会(三川) 町 佳郎

外(と)つ国の来客迎え被爆地に反核集会の熱気こもれり
核の配備移せ移せぬと大団の論(あげつら)うはさまに終戦日來ぬ
身にしつく食も食(は)まなく細りしまま逝きにし兄よ又夏が巡り来ぬ
二十日余日照り続きて萎えしが夜更けてはげしき雨降り出でぬ
稲妻も伴いて鳴る夜の雷時じくの雨降りつつく日々
菓物もあまた積みたる舟にのり波荒き海彼へ母旅立ちぬ (精霊流し)
大阪より帰省せし兄は青と黄のインコの番いを土産に持ち来
役選の初まれば雨の中連なりてわが職場にも候補者の挨拶に来ぬ
役職名書きし名札を胸に下げ礼(いや)する友もはや若からず
おのがじし組織導く意気こみに意見違(たが)う三組の候補者の群